

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語の「漢字を文の中で正しく使う」ことについて若干の課題がある <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識技能について二極化傾向がある。個別に必要な支援を講じる必要がある	⇒ 学習活動の中で、書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のアプリを効果的に活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進めていく【週に1度】。 学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童を主体とした学習活動を展開し、成果や課題を共有していく【月に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「相手の意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる」ことについて、課題がみられる <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させる必要がある。	⇒ 協働的な学びを取り入れ、相手と自分の考えの相違点を意識させながら意見交換し、記録できるような活動を行っていく【1年間】。 各教科の学習活動において、根拠資料をもとに自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える活動を行う【1年間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語について、満足いく結果であった。その中で、令和6年度の課題であった「漢字を文の中で正しく使うこと」について、言葉の特徴や使い方に関する学習活動を意図的に設定したことにより、正答率が改善されてきている。 算数においても、十分満足いく結果となった。「数と計算領域」において、他の領域と比較し無回答率が高い傾向がある。理科においても十分満足いく結果となった。しかし、「理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること」について課題がみられた。
思考・判断・表現	国語において、満足いく結果となった。しかし、全国、県の平均を上回っているものの、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること」について、他の設問と比較し正答率の差が小さかった。 算数においても、十分満足いく結果となった。その中で、「数と計算」領域の、「分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と費加数が共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述すること」についての無回答率が他の設問と比較し低かった。自分の言葉や数を用いて説明する学習活動を意図的に取り入れていきたい。 理科においても、十分満足いく結果であった。「問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験方法が適切であったかどうかを検討し、表現すること」について、正答率の差が小さかった。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習活動の中で、書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリ等のアプリを効果的に活用し、一人ひとりの課題に合った学習を進めている。 学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童を主体とした学習活動を展開し、学年会などを利用して成果や課題を共有している。	変更なし
思考・判断・表現	B	協働的な学びを取り入れ、相手と自分の考えの相違点を意識させながら意見交換し、記録できるような活動を行っている。 各教科の学習活動において、根拠資料をもとに自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える活動を行っている。 夏季休業中に指導者を招聘し、授業改善に向けた研修を実施した。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)